

三中だより

令和4年3月16日(水)

大田区立大森第三中学校

校長 笛木 啓介

令和3年度第13号

大田区中央4-12-8

3学期は始業式の前から、雪が降り冬の厳しさを体感したスタートでした。世の中は、感染症の拡大に伴い、学校行事もさまざまに制限されたり、延期を余儀なくされ、この後の学校生活はどうなるのだろうかと考えてしまうこともありました。それでも、学校の教育活動は、歩みを止めることなく、日々をこつこつと積み重ねてまいりました。生徒たちも、焦ることなく、日々を着実に取り組むことができ、年間計画に沿った教育活動が展開できたこと、そしてそれに対して生徒一人ひとりが着実に取り組めたことは、とてもすばらしいことだったと思います。この生徒たちの落ち着いて取り組む姿勢は、3学期だけでなく、年間通してさまざまな場面で見られました。そして、そうした生徒たちに応え、学校行事についてもさまざまな工夫をしてほぼ年間計画に沿って教育活動を展開できたことは、この1年の成果であったと考えます。保護者のみなさま、地域のみなさまの本校の教育活動へのご理解とご協力があったことが心強いご支援となりました。大変ありがとうございました。

気候的にも状況的にも厳しい中でスタートした3学期ですが、3月の声を聞くとともに、気候的には春を先取りしたかのような陽気となりました。そして今、この陽気に急かされるように学校全体が一年間のまとめの活動へと舵を切って動いているように感じます。厳しかった船出でも、時の流れに乗り、まとめへと入港ができそうな気配を感じます。

さて、学校の1年間のまとめの時期を迎えると、1・2年生は進級、そして3年生は卒業という新たな節目を迎えます。この1年間を振り返るとともに、それぞれの新しい環境の中でまた、一

歩ずつ歩みをすすめてほしいと思います。この1年間での歩みをとめず港に着くことができたように、また、新たな船出でも一歩ずつすすめていけば、必ず自分たちの成長につながっていきます。春の気配を感じ、新たな生活にむけて考える時期です。次の1年を見据え、達成したい願いを考えるとときです。その願いが叶うか、叶わぬか、叶えるために何をしなければならぬか、何が必要なのか。自問自答して逡巡しつつ、新生活のスタートを切る準備をするという時期なのでしょう。「わくわく」や「どきどき」などさまざまな気持ちを抱く新年度にむけて、谷川俊太郎の「春に」の一節を紹介します。

この気持ちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れ
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気持ちはなんだろう

新たな世界が、生徒たちにとって安全で安心な未来が広がっていくこと、そういう未来を築いていく人に育ってほしいと切に願って止みません。



4月の行事予定

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
	昭和の日	区・学習効果測定	離任式				土曜補習	全校保護者会		小中一貫教育の日	全国学力・学習状況調査					写真撮影(全)			安全指導			健康診断始・避難訓練	入学式	始業式	春季休業日終				

スクールカウンセラーへのご相談は大森第三中学校 相談室直通電話(3773)7831

卒業するみなさんへ

1年生の目標「すこやか三中生」。授業を大切に、行事や部活動に積極的に参加し、多くの人と関わり成長することを願い、1学年の目標にしました。時には失敗して注意を受けることもあるでしょう。そんな時は素直に注意を受け入れ、明るく前向きに自分を成長させていく、そんなすこやかな精神を養うことができたでしょうか。「しなやか三中生」2年生の目標です。コロナ禍で、様々な困難がありました。苦しいときこそ、笑顔を忘れずに、余裕を持ってしなやかに過ごしてほしいと思って決めました。そして3年生は「あざやか三中生」。最高学年としての責任、進路についての悩みなど様々なことを乗り越え、すっきりした状態で、堂々と卒業式を迎えてほしいという思いを込めました。みなさんはこの3年間、私たちの願いに対し、一生懸命答えようとしてくれました。卒業おめでとうございます。自信を持って、新しい世界に臨んでください。

3学年主任 小原 真美

努力したこと

僕は、中学校で過ごした3年間で、部活動と勉強との文武両道を目指して努力しました。部活動では、試合に少しでも長く出られるようにどんな練習にも熱意を持って取り組み、自主的にトレーニングを行いました。最後の試合では負けてしまいましたが、チームメイトと共に励ましあい、努力を続けることができたので悔いはありません。勉強は自分が決めた進路に進めるよう、目標を定めて、一生懸命努力しました。僕が、努力をしていくなかで学んだことは、努力は積み重ねることで報われるということです。高校生活では、学んだことを生かし、努力を重ね、自分の満足のいく結果を出せるようにしていきたいです。

楽しかったこと

私達が2年生へと上がる時期、ちょうど感染症の流行が始まり、学校生活は大きく変わってしまいました。特に学校行事は、規模の縮小や形式の変更が行われました。しかしそのようなことがあっても中止にならずに開催された行事は、とても楽しいものだったです。私は特に修学旅行が印象に残っています。直前まで行けるか分からず、準備もあまりなかった修学旅行でしたが、結果はとても楽しく、中学校でのよい思い出となったからです。私は、三中の魅力の一つは学校行事がたくさんあり、活発なことだと思います。それはこのような情勢でもなくなることはありませんでした。先生方に様々な調整をしていただいて実現できた行事は、学校生活の中でも特に楽しかった思い出となっています。

驚いたこと

中学生としての3年間は今考えればあっという間だったと思います。特に僕たちの学年は2年のはじめからからコロナの影響でさまざまな行動が制限され大変でした。特に影響を受けたのは行事です。運動会や合唱コンクールでは行うことのできる種目が制限されたり、保護者の入場を制限したりなど、例年とは違った形で開催されました。正直はじめはあまり盛り上がれない、楽しくないと思っていましたが、各クラス、委員会が工夫しあいコロナの影響を受けながらも最大限楽しむことができました。今、改めて考えてみればとても驚くべきことだし、行事のために動いてくれた各クラス、委員会の方々には本当に感謝しています。

苦しみの受験

私が3年間で一番苦しかったことは、やはり受験期です。その中でも一番苦しかった時期が10月、11月でした。なぜなら期末の勉強に加えて受験勉強を両立しなければならない時期だったためです。両方も全力で取り組まなければならなかったのが心身共に苦しかったです。ですが、その結果として期末テストの学年順位を五科、九科両方大幅に更新することができました。苦しい、辛い時期もありましたが、それを乗り越えた先には、素晴らしい結果が待っているとこの経験から気付きました。努力はいつか実を結びと思うので皆さんもがんばってください。

嬉しかったこと

中学校生活3年間を振り返ると様々な辛さや葛藤がありましたが、それらをいくつも乗り越えていく中でいくつもの喜びに出会うこともできました。一年生では知り合ったばかりのクラスメイトと色んな場面で団結し協力し合いながら過ごし、移動教室や運動会、合唱コンクールではクラスの中で助け合いながら、仲間といくつも達成していくことができ、一つ一つの「中学校生活初めての〇〇」がとても嬉しかったのを覚えています。そして、3年間を通して私が特に嬉しかったことは三年生の時の合唱コンクールで優秀賞をもらうことができたことです。私は3年間学校の行事で2位以上をもらったことが無かったので、最後の合唱コンクールで初めて優秀賞をもらえたことがとても嬉しかったです。他にも感じた3年間の中で数えきれない喜びを大切に高校でも頑張ります。